

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

43

群馬県は1次産業、2次産業、3次産業のいずれもが発展している。こうした県は珍しいのではないかと。もちろん、東京という大きなマーケットに近いとか、道路・鉄道などの物流・交通網が発達しているという強みが背景にある。

でも、それだけだろうか。私は仕事柄、いろいろな産業や業界の人のお話を伺う機会が多い。また、お言葉に甘えて、実験場や工場を見学させていただく機会も多い。

先月、車の自動運転の実証実験をされてい

質の追求

仕事への「こだわり」

る大学と、群馬県を代表するお菓子を作られている会社を見学させていただきました。

まず、車の自動運転

目標にされていた。このため、基本的にはドライバーがいらないことを前提にするが、緊急時には人の手を使って遠隔操作をすることも想定されているとのこと。理論も大事だが、実現しなければ意味がないという、良い意味での「こだわり」と思

ることもあったと伺った。このため、十数年前にラインを自動化。それによって、今でも最繁忙期には生産量がギリギリになってしま

うが、通常期はお客さんからの注文に、ある程度余裕を持って対応できるようになったこと。

定期的な調達できる体制も整備。「良いもの」を提供しようとするあの面での「こだわり」だ。そうすることに

ってお客さんのニーズにお応えできると、自信を持っておられた。この二つの見学を踏まえて思ったことは、自分は仕事に「こだわり」はあるのだろうか、ということ。赴任した時の「群馬県のため頑張ろう」という気持ちを思い返した。皆さんも、お仕事に「こだわり」があるものを厳選。また、原材料は市況物なので安

の実験をされている大学では、ドライバーが不要なレベルをターゲットとされていた。ドライバーが不要になると、必要な時にバスを呼べるようになるほか、バスを小型化できるらしい。そうなることを

また、実現可能性を追求するということを



岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。

でも、この会社はそれだけではない。原材料を研究され、日本人の口に合う、質の高いものを厳選。また、原材料は市況物なので安